



FAX : 0466-44-0452 E メール : npo.terratomo@gmail.com HP : http://www.terratomo.com

「日本語ボランティアブラッシュアップ

講座「文法・中級編を受講して

日本語友の会、日本語ボランティア講師 田所和子

コロナ禍の為に、ここ2、3年、私たち講師の「ブラッシュアップ」等学ぶ機会がなかったが、澤野先生からご案内を頂き、9月7日に早速受講してみました。受講者は思ったより少なく20名ぐらい。

場所：藤沢市役所本庁舎5階会議室 講師：自治体国際化協会アドバイザー 坂内康子氏

かつての在留外国人は、ビジネスマン、研究者、技術者等仕事上の必要で日本語を学んだが、現在では日本に根を下ろし、生活を営んでいる人々が多い。日々の不便を解決したい、またより良い環境を求めて等で言語習得に励んでいる人々。学齢期の小学生や幼児のいる家族もある。私たちは、「日本語検定試験」を目的とした勉強のみならず、地域のボランティアならではの伝えるべき情報や交流も大切な役目であるということも念頭に置かなければならない。

そういう中、新しい学習のためのツールとしてインターネットによる学習を参考にとということで、いくつかの紹介があった。ただ Wi-Fi 環境や PC、タブレットの必要があり、現時点では講師それぞれの学習手立ての一つという状態である。私も今まで日本の交流団体が、こういう学習の情報を発しているということを知らなかったのも、新しい発見の場となった。以下、いくつか web-site を紹介いたします。

ぜひ、web-site をのぞいてみてください。

- 「日本語 e な」国際交流基金・・・初心者用。(PC 操作が面倒?)
- 「NEWS」文化庁日本語ニュース・・・日本語、教育に関する教材、カリキュラム、報告書、論文等横断的に検索できる情報指南サイト
- 「みんなの日本語」国際交流基金・・・動画 すぐ使えるオンラインの教材サイトで You Tube から入っていく。
- 「いろどり」国際交流基金・・・「いろどり」は、入門→初級1→初級2(『みんなの日本語』参考)で、各国語版で英語、中国語、モンゴル語、インドネシア語、等14か国語でどれも「日本語+外国語」で編集されている。文法、文化知識、文字学習、語彙リストの分冊があり、PCだけでなく、スマホでも OK。大変カラフルで興味を引く。小学生低学年から。

●文化庁「TSUNAHIRO」(つながる、ひろがる日本での暮らし) 日本語一英語 tsunagarujp.bunka.go.jp
もう一つこの講座で私の自覚を促してくれたのは、「学習者のわかる習得の道を」ということである。N2 や N1 を目指している生徒とは別に、「今勉強していることで、どういう力がつくのか、何の役に立つのか」、そして「日本語学習の道のどのあたりにいるのか」を明確にすると、学習意欲の支えになるということである。海外では、EU が統一された時、言語を測る JS スタンドアードの「CEFR (セフアール)」という基準を作り、A1~C2 の全体的な尺度が出来たという。

では日本で学習者に理解してもらう説明はどうしたらいいか。大人も含めて小学校等の低学年に、日本語を



学ぶという事の“全体像”をどう伝えればよいのか? 講習では一例として、「日本語の山」を描いてみましょう。頂上をどこに設定しましょうか? 「今は山の何合目」とか、「どの辺まで登りたい?」などと学習者と話す時間を設けるという事である。日本語検3級以上の生徒はともかく、日本語学習の浅い人はレベルが不明なので、少し学習が進んできた人には自分の学習位置を知るために、教室で日本語検定試験の過去問題に挑戦してもらうというのも良いことと思う。上記「いろどり」(交流基金「いろどり」で検索)には、「Cando の6レベル」(A1~C2レベル)というイラストがあり、学習者がA1~C2のレベルの丘を駆け上がっているイラストがあるので、参考になると思う。

丘は或いは山はどんな形でも構わないので、私も半年に一度位、生徒と目標を改めて話し合う時間を設けようと思った。

初めて富士山に登った!

日本語友の会、日本語学習生 グエン タン ティエン (ベトナム)

日本では、「富士山に一度も登らぬバカ、二度も登るバカ」という言葉があるのではないのでしょうか。そういう言葉を聞いたら、なぜそうなのかと私自身に自問しました。その質問に答えるために、今年夏休みに富士山に登ってみることに決めました。

日本に来た日に、初めて富士山を見ました。その時は、羽田空港から家までの坂道で車の中から遠くの富士山を見ることができて、直ぐに富士山の美しさに魅せられました。



今回の登山は二人の友達と一緒に行きました。富士山の風景を楽しむことだけではなくて自分の限界に挑戦したかったからです。私たちは今まで登山の経験が全然無く、登る前に体力を鍛えることも無かったです。更に登山用品(登山用服装や靴等)の装備まできちんと準備しなかったです。どこかに観光に行くような装備でした。当日の午後に湘南台駅から新宿駅へ行ってバスタ新宿から出発し、2時間程経って最寄り河口湖駅に着きました。残念なことに着いた時間は5時を過ぎたので、富士山五合目への終バスが一台も無くて困りました。登山計画通りに夜通し登る予定でしたが、スケジュールが乱れたから、駅の近くのホテルに泊るしかなかったです。翌日の早朝からバスで富士山五合目まで行きました。ここで売店に入って登山用杖を買おうとした時に、山を下りたばかりのベトナム人のグループに出会って皆さんから杖をもらったので買わずに済みました。親近感を感じました。

朝の9時頃、富士山の五合目から吉田ルートで登り始めました。前日の夜から登山者の人数が多いようで、朝に山を下りてくる人々が列になって麓に向って行くのを見ました。もしかしたら日帰りで私たちのように登山する人が少ないかと思いました。昼間に登ると、汗がよく出てくるから、体力が早く低下するのを感じました。ですから、5分毎に足を止めて、水分を取り、休憩を取ってから前に進んでいきます。それが登山中のリズムになってきました。5時間経って、ゆっくり富士山の風景を眺めながら歩いてきて、やっと八合目に到着できました。八合目の標高がかなり高い(3250m)ので、高いところが苦手な私はここから山の下を見ると恐怖を感じました。ここで休憩を取りながら温かいカップうどんを買って味わうことができて最高でした。ここから砂地や砕けた石がゴロゴロする道になったので登りにくく体力が消耗してしまいました。



午後の5時になり、太陽が沈み、あっという間に暗くなりましたが、やっと山頂まで登ることができて満足でした。山頂の気温はとても低かった(5度位)です。今は夏なのに冬のような寒さを感じました。空が曇に覆われているので空中に浮かんでいるかのようなようでした。山頂の周りの景色を見ながら、沢山写真を撮りました。その後、暗くならないうちに早めに山を下り始めました。下り道はジグザグ坂道で滑りやすいので転ぶこともありました。山を下りている間、休憩ポイントや売店は一箇所も無くて、持っていった水も段々

